

第 176 回山行記 黒檜山（標高 1,828m） 2023/10/23



10月の山行は100名山の一つ群馬県の黒檜山（クロビサン）でした。“クロビサン”と聞いて直ぐにピンとくる方は相当の山通、普通の方には赤城山塊の最高峰と言うほうが通じるのではないのでしょうか。山楽会としては、2011年6月、2017年6月（逆コース）にも登っており、今回は3回目でした。

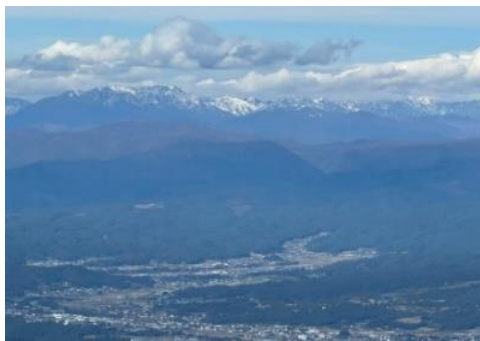
本会会員世代には百名山の中でも馴染みのある山名なのでしょう、22名（女性7名、男性15名、うち体験山行4名を含む）が参加する久々の大人数の山行になりました。確かに、「赤城山」と聞けば、すぐあの名台詞を思い出します。「赤城の山もオ～ 今宵限りィ～」三木のり平さんも桃屋のCMで言っていたし、真珠湾攻撃の旗艦も空母「赤城」でしたよね。

天気は上々、定刻に出発した中型バスは関越道を順調に進み高坂SAで休憩を取り赤城インターで一般道に入りました。山道に入りヘアピンカーブで高度を稼ぐと、木々は黄色く色づいていき、時折鮮やかに紅葉した木が見えると車内で歓声が。ほどなく黒檜山登山口駐車場に到着、標高1360mまで運んでもらえるのは有り難いものです。さっそく駐車場で丸くなり恒例のMSさん指導によるウォーミングアップ体操開始。そばを通る観光バスの窓から同世代の観光客が手を振ってエールを送ってくれ、当方も手を振って返礼。また、周辺の散策に訪れていたグループが我々の円の外側で一緒になって体操していたのも微笑ましい光景でした。

バスで数分先の登山口から、いよいよMYさんを先頭に10:00登山開始、事前説明通り、いきなりの急登。息を弾ませながら30分ほど登ると、大沼が見渡せる猫岩ネコイワに到着、すでにひと汗かいて1枚脱ぐ人も。右側の樹林が開けた場所では遥かに富士山を望むことができ、「富士山 アンテナの左140km」の杭があ

るのも納得のビュースポット。むき出しになった岩場では手も使いながら樹林帯の急登をさらに1時間ほど頑張ると勾配が緩くなり稜線に出て、左に進むとすぐに黒檜山山頂に到着。22人の集団が一行になって登る様はなかなか圧巻でしたが、平日にもかかわらず、秋の好天に恵まれた人気の山に集う人は思いのほか多く、ゆっくり登る我々を追い越す健脚者や早々と下山してくる登山者との道の譲り合いには予想外に時間がかかりました。

山頂に到着して5分ほど先の展望台へ向かう道すがら、SSさんが山頂標識をバックに記念写真を撮ろうとしたその時、「事件」が起きました。ポーズをとろうと「赤城山」の標識に手を置いたその刹那、なんと標識が倒れてしまったのです！かろうじて立っていた標識をみんなで石を積み上げてかしっかり立つようにしておきました。



展望台まで行くと、一挙に北側の視界が開け、南西から南東方向まで見渡せる大展望。「あれが燧ヶ岳、至仏山に会津駒・日光連山」「白くなっているのが谷川」「榛名山」「妙義山に荒船も見える」等々行ったことがある山を見つけてはあちこちで歓声が。

広い山頂に戻って集合写真撮影後お待ちかねの昼食。下り時間も考慮して短めの20分程でしたが、無風ぽかぽか天気の下、和気あいあいのひと時でした。

12:40 下山開始。黒檜山からの急な木の階段を慎重に下ると、大タルミから駒ヶ岳への登り、大沼、小沼、関東平野の展望を楽しみながらの稜線歩き。最後の下りは両側に手摺のある鉄の階段が長く続いた後、岩場の急坂となり、疲れた足には大きな負担。14:45 登山口駐車場に無事に到着、丁寧なクールダウン体操をして登山終了。

帰りの出発時刻は予定を少し過ぎましたが、「道の駅まえばし赤城」で喉を潤す時間もとれ、渋滞もなくほぼ予定時刻に帰着。山の紅葉時期は過ぎており残念でしたが、カルデラ湖大沼を取り巻く黒檜山と駒ヶ岳の景観や大展望、落ち葉を踏む山道歩きを楽しむことができました。

皆様お疲れ様でした。

(K.S.記)

